

< 2015年7月 >

孫育て。試し試され…

国保連合会嘱託 ひがしだ 東田 ふみお 文男

COLUMN

娘に言わせるとメロメロだという。母が亡くなる少し前に、男の初孫ができた。いま8カ月である。「ジイさん」などと呼ばせてなるものか。そう思っ

てはいたが、いまでは自ら「ジイジイが来たよ」と名乗るありさま▼顔を見たさに、何か理由をつけては娘の家に出かけてしまう。待ち受け画面にすることは我慢しているものの、スマホは娘に送ってもらった孫の写真でいっぱい。完璧に「ジイばか」の仲間入りだ▼娘の時の子育てを猛省？し、「育爺（イクジイ）」のマネのようなことをしているが、はやくも黄色信号である。8ヶ月前後になった孫を抱きかかえて立ち上がろうとすると、もう腰がふらつく。連れ合いは「腕がしび



れる」と言い、口で孫をあやす「口守り」に方向転換した。孫育ては体力勝負。そう痛感する▼買って来たオモチャより、いまはティッシュや買い物袋といったささいなモノに興味を示す。前日に受けた「ネタ」を焼き直しては、もう笑いはとれない。相手は日々、成長している。こちら手も替え品を替え、進化しなければ見捨てられる▼まだおしゃべりはできないが、上から目線はもつてのほか。「子ども目」をこちらが備えているかどうか、あの目で見つめてくる。うんちのオムツ替えに顔を背けているようでは信頼は得られない。だが、これができない▼その都度、その都度、表情を変え、こちらを試してくる。今は浮かればなしだが、孫育てはこれから山あり谷ありだ。試し試され、でしゃばらず、控えめに、成長を見つめていきたい。